

## 平成27年度 デイサービス部門 事業報告

### 重点目標

- ①利用者のニーズへの迅速で真摯な対応と関係機関との連携の強化
- ②組織内の連携の強化及びサービス内容の充実
- ③職員の資質向上
- ④地域社会へのアプローチの強化
- ⑤環境整備
- ⑥その他

### 総括

介護保険制度は、3年ごとの見直しが規定されており、平成27年はその介護報酬制度の改定が行われた年であった。今回の報酬改定では財務省から介護報酬を大幅に削減する提案がなされ（最終的には全体でマイナス2.27%削減するという数値が設定された）予想通り大幅な報酬単価の削減となり、デイサービスにおいての基本報酬も、施設の規模を問わず大幅なカットとなった。特に介護予防の報酬は新総合事業への導入もあって下げ幅が大きく、積極的に要支援の方を受け入れている当施設にとっては軽視出来ないものであった。また、8月には一定の所得基準を超える利用者の自己負担額が1割から2割に引き上げられ、ご利用者が利用回数を迷われるという問題も出現した。一方で今回の改定が重度者を重視した加算で単価の削減を補う形となっていることもあって、このような逆風の中ではあったが、以前より要支援者と同じようにターミナルの方や介護度の高い方も積極的に受け入れていた当施設では新設された中重度ケア体制加算と、スタッフ体制の問題で前年度までは見送っていた個別機能訓練の加算とを合わせて4月より提供、算定した結果、介護報酬の改定の影響は少なくすむことができたのは幸いであった。

利用者数においては、今期も前年度同様、安定という状況には依然として遠く、残念ながら7000人台に乗ることは出来なかった。一年を通してみると、1日の平均利用者数が24人を超えた月もあり、17名の方の新規ご利用もあったが、それを上回る利用中止者等（特に1月から3月にかけては16名の方が入院され、その内3名の方が逝去、また入所や利用中止者が続くという例年ない状況であった）より、稼働率も低迷することとなった。このように利用者の現況に大きな変化はあったものの年度末の数字が思いのほか低下しなかったのは、年後半に新規利用者が続いたことにあると思われる。今期も要支援の方の打診が多かったが、一方で重度（要介護度3以上）の方の打診もあり、打診された方の介護度に関しては両極的な傾向が見えた。これはふじの郷が設立当初よりどのような介護度の方でも受け入れ、柔軟に対応してきたことによるものと考えられる。また居宅介護支援事業所を通さず、直接ふじの郷への問い合わせや見学が目立ったこと、昨年同様、一般的な福祉相談等も多かったことを考えると、ふじの郷が地域社会の中で十分に福祉拠点としての機能を

発揮し始めていると言えるのではないだろうか。

事業計画の重点施策で掲げた内容を踏まえ、今年度も主役はご利用者であるという基本姿勢を柱とするミーティングや研修等を行った結果、スタッフ一人一人が自らご利用者の状態やニーズに即したサービスの提供を考えることが出来るようになり、実践することができた。今年度、デイサービスは 3 名の新人の入職があったが、それぞれふじの郷の理念に基づいて業務を行い、内 1 名は既に常勤としてデイサービス業務の柱となっている。

先に述べたようにふじの郷は設立当初からの理念を持って、多様性のある幅広い利用者の受け入れを行っているのが強みであると言え、それによってこれからも地域社会における要介護者・要支援者とその家族の自立生活を支援するという高齢者福祉本来の機能を十分に果たすことができるのではと考える。この強みを堅持し、推し進めていくこと、そして次のステップ「更なる強み（独自性・専門性）の創造」へと進むことが、利用者の自己実現へ向かうサービスにつながっていくだけでなく、地域福祉、延いては高齢者福祉の土台を強固なものにしていくものと思われる。このような考えのもと、次年度も利用者が最後まで自分の意思で自己選択自己決定していけるように今期同様、機能の回復に留まらず「生活の回復」、さらには生きがいを持つ「人生の回復」に向けて支援していきたい。

## 重点目標別報告

### ①ご利用者のニーズへの迅速で真摯な対応と関係機関との連携の強化

朝礼や終礼、スタッフミーティング等を通じて情報の共有化に努め、個々の利用者のニーズに関係機関との連絡を密に取りながら迅速に対応した。

### ②組織内の連携の強化及びサービス内容の充実

- ・組織内の連携の強化については、主役はご利用者であるという基本姿勢を柱とするミーティングや研修等を行い、スタッフ間のコミュニケーション・連携の強化をはかった。
- ・機能訓練においては、機能訓練に関わる職員（機能訓練指導員及び音楽担当職員）、看護師、生活相談員の 3 職種によるミーティングを行い、利用者一人一人の機能に合わせた機能訓練を計画実践、また評価することが出来た。また今期からは個別機能訓練加算Ⅱを算定することとしたため、今までの要支援の方に合わせて要介護の方への機能訓練計画も本人の意向を踏まえての作成ができ、実践することが出来た。
- ・レクリエーションに関しては、デイを利用される方全体のかかわりと達成感を感じられるものとして、今期も引き続きタペストリーの製作を行った。利用者の方が「家でも出来る」と自信を持って帰宅できるような作品作りを行い、施設での成功体験を自宅でも追体験できるようにした。また、作成した季節の小物をその季節ごとにお持ち帰り頂き、大変喜んで頂けた。（母の日のカーネーション等）利用者からの要望を反映したレクリエーションや行事も随時企画し行い、また職員によるミニコンサート等も

適宜行った。(七夕コンサート等)

### ③職員の資質向上

送迎時における挨拶を、利用者、ご家族のみならず近隣の方へも行うことを引き続き、指示し徹底させた。また、送迎時のご家族との会話を重視した結果、より子細に利用者やご家族のニーズを拾い上げていくことが出来た。ミーティングや職員研修において対人援助業務に関する内部研修を行う一方、随時、ヒヤリハットや事故報告を基にした介護技術の見直しと検討を行い、再発防止に努めた。(27年度も新たに3人の入職があり、介護技術、対人援助技術に関する研修を重点的に行うとともに既存の職員にとってはブラッシュアップの機会とした) 職員が個人的に外部研修に参加することを奨励し、デイサービス職員として持つべき知識を習得し資質の向上に努めるようにした。特に、今期算定することになった「個別機能訓練加算Ⅱ」に関しては、要支援者の「運動器機能向上加算」と合わせ、適宜、会議の時間を使って勉強すると共に研修会や勉強会に積極的に参加して内容の把握、研鑽に努めた。また利用者に関する細かな気付きを朝礼、終礼で報告することを奨励し、それに対する検討を随時スタッフ間で行いサービスに生かした。

### ④地域社会へのアプローチの強化

各種地元のイベント(満月会・そろばん踊りなど)に参加し、地域の方との交流を積極的に行った。また、広域にわたって行っている老人会等への従来の出張体操に加え、定期的(月1回)に認知症カフェ(認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰もが参加でき、集う場)で介護予防に関する講義・相談を行った。その他、平成27年度は久留米市介護予防普及啓発事業としての「ドレミ♪で介護予防!!」事業を市から請け負い、デイスタッフの介護福祉士、音楽療法士を含む音楽担当者、社会福祉士のチームで、9月より約4ヶ月にわたり3会場(北野・南部・三潁)において各10回、計30回の介護予防事業を行い、大変好評を得た。

### ⑤環境整備

今回の介護報酬改定に合わせて個別機能訓練加算を算定したことを受け、よりご利用者様の目的に添った機能訓練を行うために、平行棒やステップ台、トレーニングマシン等の機能訓練用機器を購入した。前者二つはそれぞれに歩行訓練や階段昇降訓練等に威力を発揮し、トレーニングマシンにおいては全身の機能訓練が可能となったため、行えるプログラムも増えてご利用者様のニーズにより細かな対応ができるようになった。

### ⑥その他

#### \* 実習生の受け入れ

久留米大学(社会福祉士) 1名 (9月3日~10月3日)

デイサービス部門主任 : 濱田美穂子